

平成 30 年 監 査 報 告 第 1 号

定 例 監 査 報 告

( 定例監査 )

教 育 委 員 会

水 道 部

市 立 半 田 病 院

半 田 市 監 査 委 員

# 目 次

【定例監査】	.....	1
教育委員会		
図書館	.....	3
博物館	.....	4
小中学校・幼稚園	.....	6
(成岩小学校、板山小学校、乙川中学校、乙川幼稚園)		
水道部		
上水道課	.....	8
下水道課	.....	9
市立半田病院		
管理課	.....	11
むすび	.....	13

監査報告第1号  
平成30年 2月13日

半田市市長様  
半田市議会議長様  
半田市教育委員会教育長様

半田市監査委員 西川 承

半田市監査委員 小出 義一

#### 定例監査結果の報告について

地方自治法第199条第4項の規定に基づいて定例監査を行ったので、その結果を同条第9項の規定により報告いたします。

## 第1 監査の時期及び対象

教育委員会	平成30年	1月17日	乙川幼稚園	・	乙川中学校
		1月18日	成岩小学校	・	板山小学校
		1月26日	図書館	・	博物館
水道部	平成29年	12月26日	上水道課	・	下水道課
市立半田病院	平成29年	12月26日	管理課		

## 第2 監査の方法

平成29年度の財務に関する事務の執行及び経営に係る事業が、関係法令等に基づき、適正かつ効率的に執行されているかどうかを主眼として平成29年10月31日現在で調製された資料により、監査委員室及び現地において関係職員からの説明を聴取し、都市監査基準の規定を適用し監査を実施した。また、昨年度から引き続き、重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況について主要なテーマとして監査を実施した。

## 第3 監査の意見

財務に関する事務の執行状況は、一部に改善を要する事例が見受けられたが、おおむね適正かつ効率的に執行されていると認められる。

なお、主要なテーマとして実施した重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況についての意見、要望は次のとおりである。

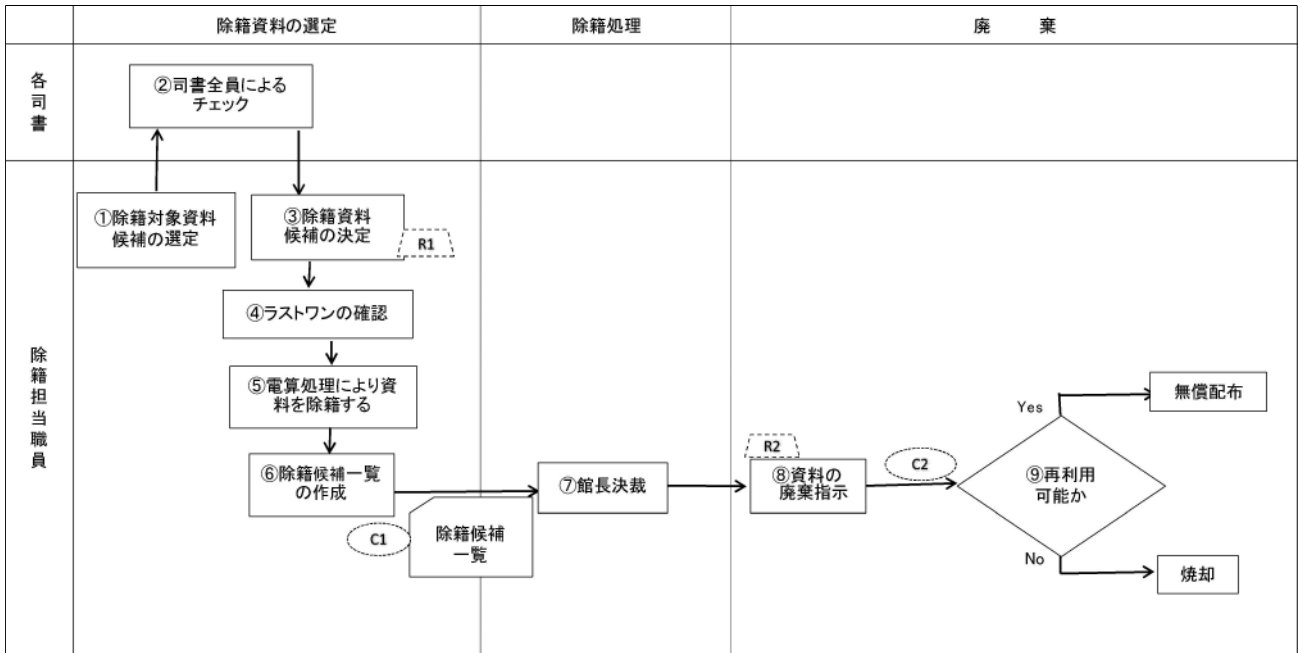
# 教育委員会

## 1 図書館

### (1) 重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況

#### ○資料の除籍に関する事務

半田市立図書館では、資料の充実を図るため新たに 19,371 点を購入する一方、内容が現状と合わないものや損傷の著しいものを除籍し、資料の保存スペースを確保するとともに利用者が資料を手に取りやすい環境を目指している。蔵書総数は 504,012 点となり、前年度と比較して 1.2%減少している。



リスクNo.	リスク	リスク評価	統制No.	対応する内部統制	統制の頻度
R1	除籍すべきでない資料を除籍する	高	C1	除籍担当職員が選定したのち、司書全員のチェックを受けた資料の除籍一覧を作成し、館長の決裁を受ける。	都度
R2	配布可能な資料を焼却する	低	C2	除籍された資料のうち、リサイクル本として無償配布に耐えうるか否かを判断する。	都度

### (2) リスクに対する意見・要望

平成 28 年定例監査報告第 1 号において「年間 1 万 7 千～8 千冊の新刊を購入しており、閉架室は手狭な状態である。苦しいながらも本が溢れないように努力をしているが、貴重な資料以外については除籍を推進して、スペースの確保を図られたい。」と指摘した。蔵書総数は前年度と比較して 1.2%減少しており、組織的な除籍の努力は認めるものの、多大な時間も費やされることから作業の効率化についても検討を重ねていただきたい。

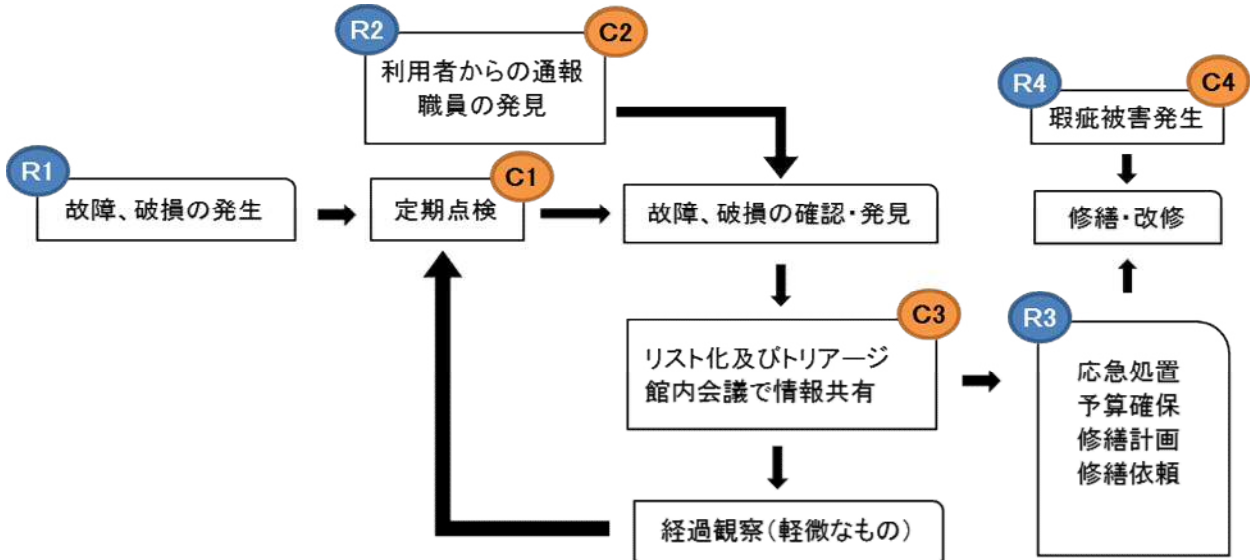
## 2 博物館

### (1) 重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況

#### ●博物館

##### ○施設修繕に関する事務

博物館では、図書館及び博物館への来館者が安全かつ快適に施設を利用するとともに貴重な資料を適切に展示、保存していくため、施設の老朽化による故障、破損の修繕を実施している。



リスクNo.	リスク	リスク評価	統制No.	対応する内部統制	統制の頻度
R1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 築 30 年を経過した建物のため、躯体や設備の故障・破損発生の可能性が高い。</li> <li>・ 場所によっては発見が遅れる。</li> <li>・ 突発的に故障が発生する。</li> </ul>	高	C1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 年 2 回の建物、敷地の総点検を実施。</li> <li>・ 点検は図書館博物館職員が 2 名以上でエリアを分担して行う。</li> <li>・ 点検結果は、リストにして可視化 (図、記録写真含む) する。</li> </ul>	年 2 回
R2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 突発的な故障、破損で対応が遅れる。</li> <li>・ 破損範囲が拡大する。</li> </ul>	高	C2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 通報、連絡、発見があった場合は、速やかに確認、応急処置を行ったうえで館内で情報共有 (記録) を図る。</li> </ul>	都度
R3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 応急処置や修繕が遅れ、施設の利便性や安全性が低下する。</li> <li>・ 収蔵物の価値が損なわれる。</li> </ul>	高	C3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 破損、故障の程度に応じてトリアージしたリストを基に修繕計画を作成し、計画的な対応を図る。</li> <li>・ 図博連絡会議で情報共有し対応を協議。</li> </ul>	都度
R4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 類似箇所でも再発の可能性がある。</li> </ul>	高	C4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 修繕計画及び耐用年数に基づく適切な更新を行う。</li> </ul>	都度

### (2) リスクに対する意見・要望

施設の故障・破損に対しては、定期点検などの予防策を講じることが第一段階の対応となる。職員が行う定期点検については、まず点検項目とインターバル (点検の間隔) が十分かどうかを検証していただきたい。そして、第二段階の対応として、実際に故障・破損が起きた場合には、故障・破損のレベルによって休館する、来館者に対する注意書きの掲示をするなどの対策が必要になるので、事前に備えておくべき対応策もレベル別で考えていただきたい。

(3) その他

<管理状況が改善した収蔵庫>



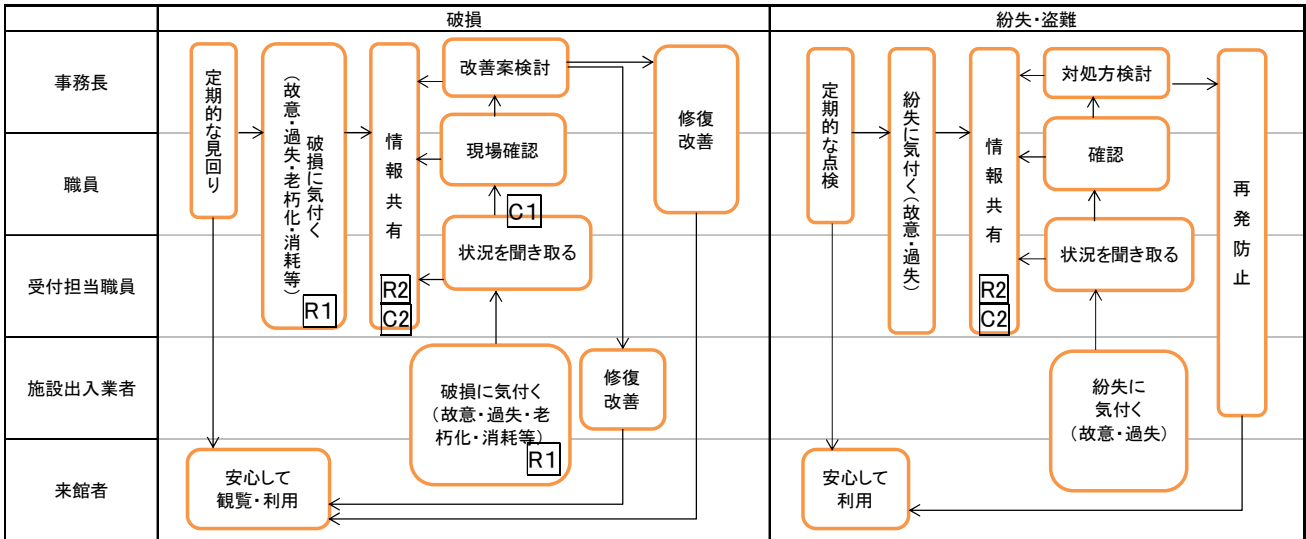
平成 28 年定例監査報告第 1 号では「多くの収蔵品を所蔵しており、スペースの関係で手狭になっているため、一部の収蔵物（書籍類）が廊下に置かれている状態である。」と指摘した。今回の定例監査で確認したところ、収蔵庫内は整理整頓され、「館蔵品台帳」を作成し、収蔵品の見える化に取り組んでいた。重要資産の保全、スペースの確保、美観、防災上の観点から効果があるものと認め、評価したい。

この管理状況を基に、積極的に市民に文化財を展示し、魅力ある博物館となるよう努めていただきたい。

●博物館（新美南吉記念館）

○施設の保全に関する事務

新美南吉記念館では来館者や関係者の安全を守り円滑に開館するため、施設的美観・快適性の維持保全に取り組んでいる。



リスクNo.	リスク	リスク評価	統制No.	対応する内部統制	統制の頻度
R1	破損により危険にさらす、怪我をする	高	C1	怪我の状況により相応の対処をするとともに、担当職員はいつからどのような状況だったのかを調査し、事務長に報告する。情報共有のうえ、職員全員で再発防止に努める。	都度
R2	情報共有漏れ	高	C2	日常からの情報共有（口頭、ホワイトボード、パソコン等）に加え、定期的な朝礼を行い、その場にいる職員全員が発言する。	週1程度

(4) リスクに対する意見・要望

施設の破損は、重要なリスクであり、観覧者を危険にさらす、怪我をさせることのないよう安全を十分に確保しなくてはならない。老朽化によりリスクを常に抱える状態であるならば、予防対策をより重点的に、高いレベルに引き上げることも検討していただきたい。

展示品の紛失・盗難に対しては、監視カメラ、警報装置等の導入も有効であるので、見回り等の人的コストと比較検討のうえ、総合的なセキュリティ強化を図られたい。

### 3 小中学校・幼稚園

成岩小学校：新しい時代を生きる子どもたちが生きる力を身につけられるよう、将来を見据えてキャリア教育を軸に教育活動を展開している。地域や保護者に信頼される「元気いっぱい、笑顔いっぱい、優しさいっぱい」の学校を目指している。

板山小学校：基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、学ぶ意欲を高める教育を進めるとともに、地域・家庭・分校・中学校・こども園と連携し、郷土に対する誇りと愛情を育む教育を進めている。礼儀正しく、感謝の気持ちを持ち、思いやりの心を育む教育、健康な心と体を持ち、目標に向け努力し続ける態度を身につける教育を進めている。

乙川中学校：確かな学力を身につけるため、特色ある学校教育活動の展開を図るとともに、強いからだと豊かな心を育てるための教育活動を推進している。また、心身共に健全で郷土を愛する生徒を育てるため、家庭や地域との連携を図っている。

乙川幼稚園：幼児理解を深め、保護者と意思疎通を図り、幼児一人一人への指導の充実を目指すとともに、幼児が生活の中で主体的にかかわり、感動体験や感情体験をできるような豊かな環境構成を工夫し、「開かれた幼稚園」として家庭・地域との連携を深め、地域の子育て支援に努めている。

#### (1) 重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況

今回、定例監査を行った各小中学校、幼稚園には、「危機管理マニュアル」の中から自校、自園で特に重点管理したいテーマを1つ選んでもらい、ルールは確立されているか、適切に運用されているかなどについて確認した。

#### (2) 理科準備室、金庫、個人情報管理について

小中学校内及び園内の説明を聞きながら現場確認を行った。その中で、監査の目的・効果については、次の4点を主眼とした。

##### ① 財産管理について

公金を使って購入している設備や備品等の管理（取得、除却等）及び台帳の整備状況の検証を行うこと。

##### ② リスク管理について

個人情報のセキュリティ管理や想定される事故、災害などのリスクに対する対応策について協議すること。

##### ③ 課題、要望の抽出

現場に潜んでいる課題の抽出や要望事項の聞き取りにより、今後の改善につなげること。

##### ④ 監査の効果

監査実施前の自己点検により、業務ルールの見直しや保管備品等の整理整頓がなされるはずであり、さらに、監査指摘事項への対応により不備の改善がなされる。

以下、確認時に気づいた点を記述するので、見直し等を図られたい。

#### ア 不要備品の除却推進について

使用不能なもの、使う見込みがないものなどの不要な備品が、廃棄にかかる費用負担等を理由に適切な処理がなされていないものが見受けられた。このまま保管していても、いずれは廃棄し、費用を支払うものであるため、スペースの有効活用や防災の観点からも早期の廃棄を推進していただきたい。



<使用されていない機器>



<使用されていない薬品庫>



## イ 災害時の対応について

施設の設置基準により、幼児用の避難施設を設けることとなっているが、現在の避難用滑り台が幼児の避難に有効であるのか検証を重ねられたい。また、避難のときに物が倒れ、経路を塞ぐことのないよう廊下にはできる限り物を置かず、スペースを確保していただきたい。

<避難用滑り台>



<廊下のスペース>



## ウ 薬品管理について

平成 27 年度に作成し、運用が始まった「毒物劇物危害防止規定」に基づく薬品管理が浸透し、整理できている。毒物、劇物は、児童の安全に重大な影響を及ぼすおそれがあるため、厳格に管理するよう指摘してきた効果であり、評価できる。ただし、規定やマニュアルは年を経ると、実情と合わなくなったり、新しい手順の追加が必要になるので、規定の見直しは随時行っていただきたい。また、改定を行った場合には、その年月日を記載することとされたい。

<整理されている薬品庫>



<転倒防止のためケースに入った薬品>



# 水道部

## 1 上水道課

### (1) 業務状況

平成 29 年 9 月末現在における業務状況は、給水人口 118,347 人、給水戸数 53,423 戸であり、前年同期に比べ給水人口は 253 人(0.2%)、給水戸数は 394 戸(0.7%)増加している。

人口総数に対する普及率は、前年同期と変わらず 99.39%となっている。

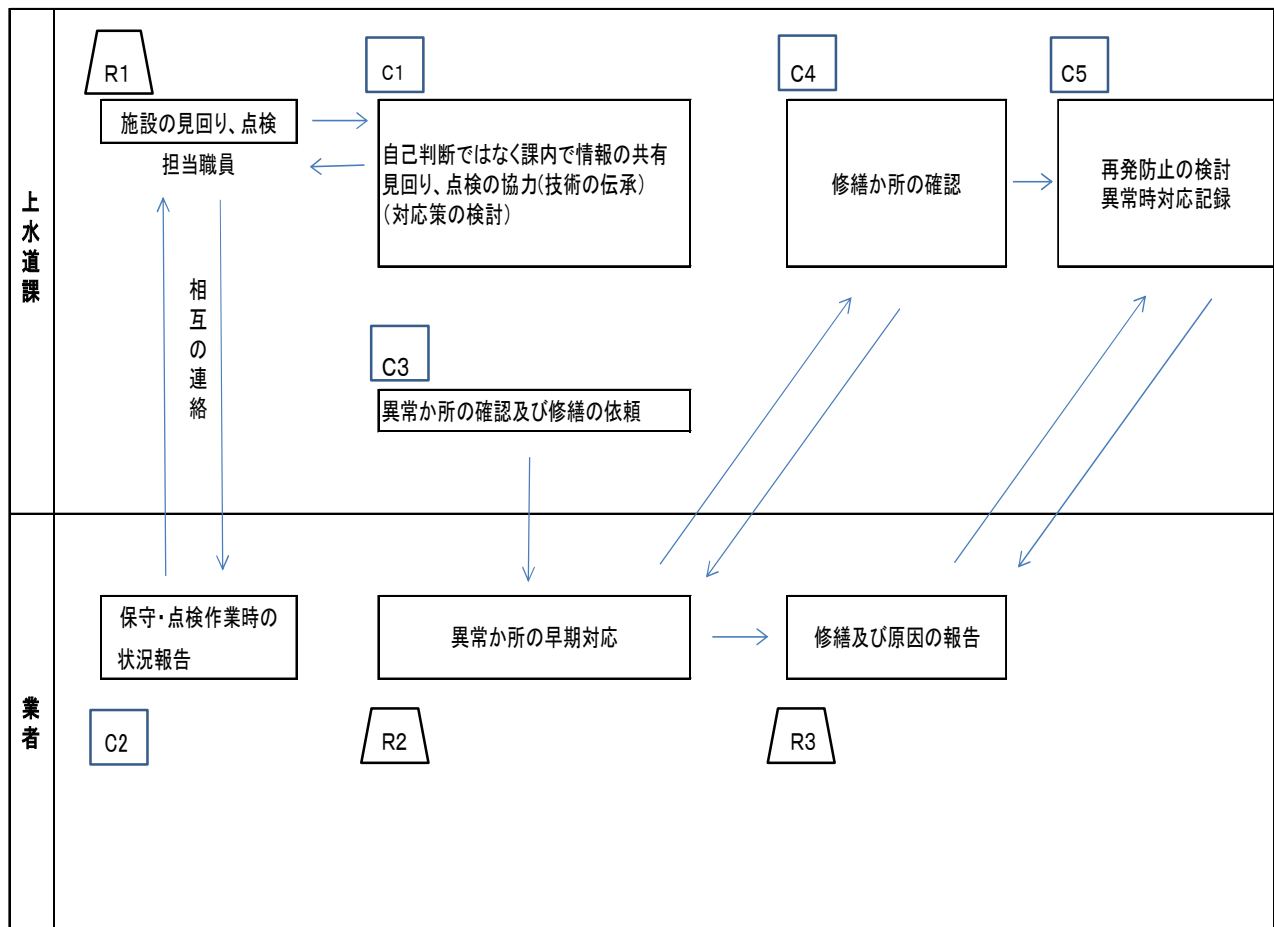
愛知県からの受水量(配水量)は 7,209,592 m<sup>3</sup>であり、前年同期に比べ 52,476 m<sup>3</sup>(0.7%)増加している。また、配水量と給水量を対比した有収率は 93.7%であり、前年同期に比べ 0.4%低下している。

経営状況は、給水量が 6,752,217 m<sup>3</sup>で、前年同期に比べ 17,567 m<sup>3</sup>(0.3%)、給水収益は 950,483 千円で、前年同期に比べ 11,371 千円(1.2%)それぞれ増加し、昨年に引き続き収益は増加したが、長期的には今後も給水人口の減少や節水型機器の普及により給水量の減少が予想される。

### (2) 重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況

#### ○配水池及びポンプ施設管理に関する事務

水道水を安定して供給するために、配水池及びポンプ施設等の見回りを行っており、主として次のような事務が行われている。



リスクNo.	リスク	リスク評価	統制No.	対応する内部統制	統制の頻度
R1	市内3か所の配水池及び6か所のポンプ施設を管理しているが担当職員だけでは、日々の管理が行き届かず異常の発見が遅れる。	高	C1	日々の見回りで施設の状況を確認し、事故防止に努め、課内で情報を共有する。	都度
			C2	計装設備の保守点検委託業者からの点検結果を遅滞なく連絡してもらう。(ポンプの切替等)	都度
R2	早期に対応しないと市民への給水が遅れる。	高	C3	異常か所を早期に確認し、修繕の依頼をする。	都度
R3	修繕か所の応急的な対応の場合、再発の可能性はある。	高	C4	修繕か所及び関連か所を確認し、適正に配水調整する。	都度
			中	C5	修繕完了後、修繕方法に問題がないかを確認する。

### (3) リスクに対する意見・要望

想定している異常の定義と事例を具体的に整理し、その対応をマニュアル化することで職員が行う自主点検が適切な予防に役立つように仕組みを構築していただきたい。また、保守点検委託業者に対しては、どのように点検業務を行っているか説明を求め、報告を受け、市が主体性をもって管理に努めていただきたい。

## 2 下水道課

### (1) 業務状況

#### ア 汚水事業

平成29年9月末現在における汚水事業の状況は、処理区域面積1,867.3haで整備率87.6%、接続世帯数は41,388世帯で接続率は83.0%であり、前年同期に比べ接続率は0.8ポイント増加している。

処理水量は5,314,566m<sup>3</sup>であり、前年同期に比べ10,181m<sup>3</sup>(0.2%)減少している。また、処理水量から不明水量を除いた有収水量と処理水量を対比した有収率は89.2%であり、前年同期に比べ1.9%改善している。

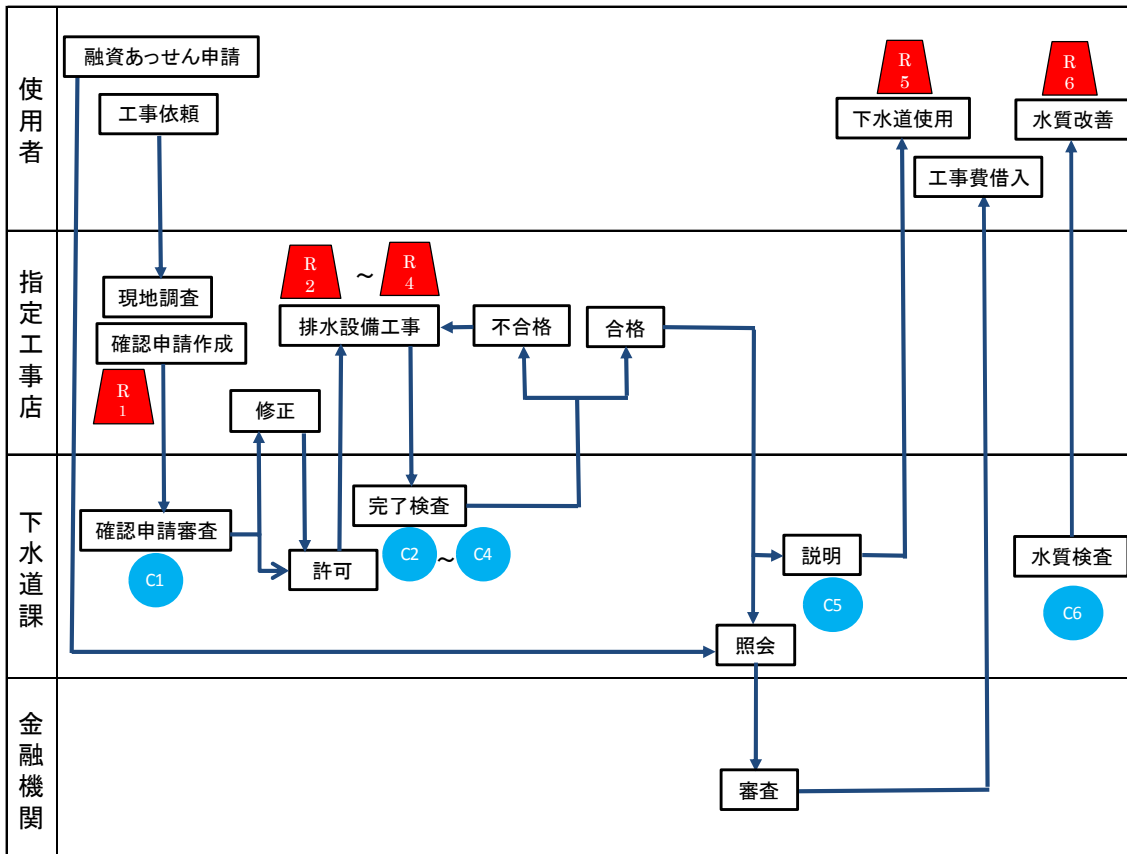
#### イ 雨水事業

管渠の整備、排水ポンプ場の施設の改築、更新については、国庫補助事業の支援制度がストックマネジメントに移行されたため、全体計画の策定に取り組んでいる。

### (2) 重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況

#### ○下水道接続に関する事務

全ての下水道接続工事に対し、着手前の事前審査や工事完了後の現地検査を実施し、適切な接続のため改善指導・現地確認を行っている。また、事業所等においては、定期的に水質検査を実施する中、必要に応じ改善指導を行い、下水道施設の破損や腐食の防止に努めている。



リスクNo.	リスク	リスク評価	統制No.	対応する内部統制	統制の頻度
R1	設計不備	高	C1	基準等の厳守、業者指導	都度
R2	(宅内側) 誤接続・施工不備等	高	C2	基準等の厳守、完了検査、業者指導	都度
R3	(市管理側) 雨水混入による流下能力不足、基準を超えた水質等による管渠の破損、腐食	高	C3	基準等の厳守、完了検査、業者指導	都度
R4	雨水混入による処理費の増加	高	C4	基準等の厳守、完了検査、業者指導	都度
R5	不適切な使用や基準を超えた水質等による管渠の破損、腐食	高	C5	使用者への正しい下水道使用の説明、市報等による周知	都度
R6	基準を超えた水質による管渠の破損、閉塞	高	C6	定期的な水質検査による改善指導	都度

### (3) リスクに対する意見・要望

使用者に対する水質検査のルールは整備されているものの、運用においては、基準に抵触した場合の対応ルールが不十分である。たとえば、検査コストの使用者負担や改善報告の義務化など、基準を順守できない使用者には厳しさをもって指導していただきたい。

# 市立半田病院

## (1) 事業の実施状況

### ア 業務の状況について

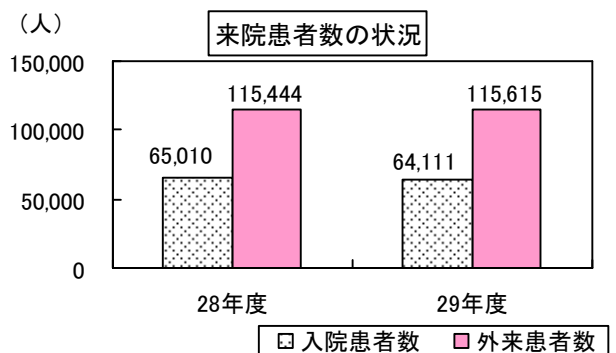
半田市立半田病院は、知多半島医療圏における唯一の第三次救急医療機関として、質の高い急性期医療の提供、災害時の医療拠点となることを重要な使命として、医療安全の推進、医療連携の強化、医療教育の充実、必要職員の確保、病院機能の向上、健全経営の目標を掲げている。本年度は8月に研修医の教育機関として適切な指導・プログラムを実施している証である卒後臨床研修評価の認定更新を受けたほか30年度の診療報酬改定に向けた準備、新病院建設に向けた取り組みを行っている。

少子高齢化により医療を取り巻く環境は大きく変化していく中、機能分化を図る一方、地域医療機関と緊密に連携することで地域全体に切れ目のない医療を提供できるよう努めている。

### イ 患者数について

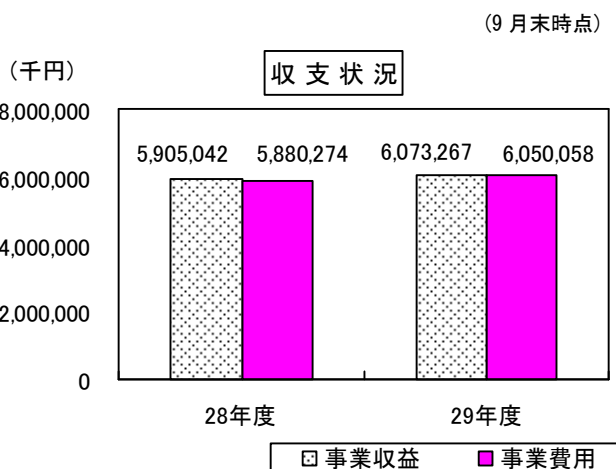
(9月末時点)

平均在院日数は0.3日伸びたものの、病床稼働率が0.9ポイント下がったことにより、延べ入院患者数は前年同期に比べ899人(1.4%)減少したが、延べ外来患者数は診療日数が1日増えたことから前年同期に比べて171人(0.1%)増加している。



### ウ 経営状況

事業収益は、前年と比べ168,225千円(2.8%)増加している。これは主に、入院、外来共に一人当たりの単価が増加したことによるもので、入院単価で2,060円(3.5%)、外来単価で854円(6.3%)それぞれ増加している。事業費用は、169,784千円(2.9%)増加している。これは主に、材料費92,409千円(6.5%)の増加で、抗がん剤等の高額な薬品使用によるものである。また看護師や事務員の職員数増、法定福利費の掛率増により、給与費が74,718千円(2.5%)の増加となっている。



### エ 新病院建設について

愛知県知事の助言により、高台で建設候補地を考え直すこととなり、有識者等で構成される「新病院建設候補地検討委員会」へ諮問、平成30年3月末までに市長が候補地を選定したいとしている。職員駐車場案から変更することで開院時期が大幅に遅延することは確実であり、現病院への更なる投資、人材の不足、患者の減少等の影響が危惧され、病院経営は厳しさを増すこととなるが、質の高い医療と健全経営は車の両輪であることから、厳しい環境下にあっても職員一丸となった健全経営が求められる。遅延するリスクを的確に把握し、事前に対応策を講じることで少しでも低減できるよう関係機関と対応していく必要がある。

## (2) 重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況

### ○ 重要設備の更新計画

新病院移転を見据え実施を見送ってきた既存設備について、移転時期の延期が確実となったことから、患者生命にかかわる重大な事故発生リスク低減を主要課題に優先度を付けて、更新計画の整理を行った。

半田病院既存改修計画（案）		築経過年数		36	37	38	39	40	41	42	43	備考																								
		年	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025																										
		年度	H30年度	H31年度	H32年度	H33年度	H34年度	H35年度	H36年度	H37年度																										
	項目	内容	患者に対するリスク	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	1	4	7	10	
			高																																	
			中																																	
			小																																	

記) 費用計上の難しいもの ①給排水設備の漏水対策を実施するには、現地調査を行わなくては改修計画をたてることができない。  
 ②電気設備については、トランス、分電盤等の更新を進めたいところであるが、院内の停電に限界があるため更新計画は難易度が高いものとなる。

### (3) 要望事項

#### 「重要設備の更新計画について」

新病院への移転計画が策定される中、現病院へさらなる追加投資をすることは経営面から躊躇するケースもあると思うが、医療事故につながる施設の不備や故障は、患者からの信用失墜、ひいては経営悪化につながることを念頭におき、たとえ短期間の使用になっても必要な設備更新は実施していくよう要望する。

また患者に対するリスクが小さい設備更新であっても、サービス向上により患者増、職員の負担軽減につながる更新もある。更新の意思決定後は、一刻も早い実施がメリットも大きい。移転スケジュール調整と合わせて、既存設備の更新内容を総点検して実施の有無を判断していただきたい。

#### 「資金運用について」

預金残高は増加しつつあり、その運用方法については昨年度の定例監査、その後の例月出納検査でも随時、指摘している。管理部門として1年間を通じて、資金需要の増減は把握しているはずであり、過剰な流動資金を普通預金で運用している現状は、少なくとも定期預金との利息差額分を無駄にしていると言わざるを得ない。金利が上昇した場合に備えた債券等による資金運用の検討も必要であるが、短期的には、損失リスクの無い定期預金での運用を速やかに取り組んでいただきたい。

#### 「備品管理について」

医療機器の大型化に伴い、本来あるべきスペースに収納できずに廊下等が保管場所になっている現状がある。新病院移転時には解消される問題であるが、移転までの間、見過ごすことはできない。災害時にこうした医療機器や備品類が障害となり患者生命に影響を及ぼすリスクになることも想定されるので、対策を講じることは管理部門としての責務である。設置場所の工夫、既存の備品類の廃棄を進めて新たなスペース確保、場合によっては修繕工事することも検討していただきたい。

## 第5 むすび

監査の結果は以上のとおりである。

今回の監査は、10月に実施した監査と同様に、学校などの施設へ出向き、27年度から課題となっている劇物・毒物の薬品庫や金庫内の管理状況及び個人情報管理状況について、説明を聞きながら現場確認を行った。また公営企業会計については、重要リスクに対する内部統制の整備状況及び運用状況について確認した。

紛失した際のリスクが高い個人情報、薬品及び現金管理については、統括する学校教育課からの通知及び学校間ネットワークにより、いずれの学校も統一的なマニュアルを基礎にした一定水準以上の管理が実施され、重要リスクに対する職場の意識向上は図られつつあると認めた。学校によっては独自の工夫により紛失漏れがないことが一目で分かる仕組みを採用するなど、担当職員や管理職の危機意識の高さを感じることができた。

学校固有の習慣や特別なルールが存在しており、すべての学校に有効な標準マニュアルは存在しない。また個人情報や危機管理に対する常識は絶えず変化していて、環境に応じた対応が要求される。そのためには職場内、担当者間で議論をして、より効率的、より正確、なおかつ簡便な手法を研究し、マニュアルのオリジナル化を推進したうえで実践的なリスクコントロールを構築していただきたい。

図書館・博物館は半田市の歴史を後世へ伝えていく資料、財産の宝庫であり、膨大な財産を厳重に保存している実態を確認できた。将来世代へ残していくことも大事な役割であるが、創意工夫による展示手法を検討していただき、図書館・博物館の魅力を一層高めていただきたい。

今回の監査では、館蔵品のリスト作成、収蔵庫への適切な収納など大きな改善が見られた。短期に指摘事項を改善した成果については評価するが、未だ整理できていない館蔵品、更には販売用の図録や市誌が収蔵庫の多くを占拠している実態を確認した。今後は販売促進に努めるとともに保存年限や処分方法についても検討していただき限られた収納スペースの有効活用を図っていただきたい。

また今回、監査を行ったいずれの学校、施設とも老朽化による施設破損のリスク、補修の必要性を訴えているが、すべての箇所を要望どおり修繕するのは限られた財源もあることから優先順位を適切につけていただきたい。絶対に壊れてはいけない場所や機器は存在するはずであり、施設管理者はその重要度に応じてチェック体制を強化し優先度をつける必要がある。利用者、子供の安全、また歴史的な文化財が施設の破損によって損なわれることがあってはならず、そうした施設箇所は特に予防保全にも力を入れるべきである。建替え計画がある場合、二重投資のリスクもあるが、事故が起きた際のリスクを考慮し、危険個所の修繕を先送りすることのないように要望する。

上水道事業については、今年度の黒字が見込まれ、給水人口及び給水戸数もわずかであるが増加、収益も改善傾向にある。しかしながら、節水意識の高まりや節水型機器の普及など、全国的に水の使用量は減少へ転じることが見込まれている。そのような中、配水管の老朽化対策など、将来的な事業経営が懸念されるところである。安定した経営基盤のもと、将来にわたって安全かつ安心で良質な水を市民に提供できるよう、置かれた環境・条件に適した事業経営となるよう努められたい。

下水道事業については、平成28年度から地方公営企業法の全部を適用し、より効率的、合理的な事業運営及び健全財政を目指しているところであるが、下水道事業は、設備投資と維持管理に多額の費用を要する事業であり、引き続き、経営面で厳しい状況にある。今後はより一層、接続率の向上に努めるなど、経営改善に取り組んでいただきたい。

病院事業については、平成21年度から続いている黒字化を継続すべく、半田病院改革プランのもと真摯に努力してきたところであるが、現病院を取り巻く様々な状況から今後は厳しい経営状況が続くと予想される。管理課には、新規事業の提案、資産活用による新たな収益源を見つけるなど、厳しい局面を乗り越える積極的な事業展開を要望し、むすびとしたい。